

DIGITABLE 第 41 回勉強会レポート

2011 年 1 月 15 日 於：森下文化センター 第一研修室



Digitable 基礎講座「RAW 画像の概念と SILKYPIX」：高木大輔講師
会員発表「秋から初冬の中欧」：安藤 和 正会員
参加者全員による“ライトニングトーク”
Photoshop 研究講座「デジタル写真と粒状感」：平野正志 講師

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>

Digitable 基礎講座

「RAW 画像の概念と SILKYPIX」：高木大輔講師

RAW 画像についてのおさらいと RAW 画像処理ソフトとして SILKYPIX について詳しく説明する。

○RAW 画像とは？

デジタル一眼レフカメラの特徴として、RAW データ形式がある。RAW データ形式という標準化された規格があるわけではなく、メーカーが異なればまったく互換性の無いファイル形式だ。

RAW とは、“生”という意味から CCD (又は CMOS) からの出力信号を単純にデジタル化しただけの“生のデータ”という意味だ。CCD (または CMOS) の各画素はモノトーンの階調情報しか持っていないが、カラーフィルターを組み合わせることで、各色毎の階調情報から色を作り、カラー画像を作り上げている。

そして、この RAW データを開いて画像を表示、調整して TIFF、JPEG などの一般画像に定着させることを「RAW 現像」と呼んでいる。RAW データに対し、JPEG データは、デジタルカメラ側で画像処理を行いカラー画像を作り上げ、それを JPEG 形式でファイルサイズを圧縮したデータである。

○素材としての RAW データ

RAW データとは、料理に例えれば素材そのもので、味付けもまったく何もなされていない生の素材そのものだ。それをどう調理するかを決めるのも、ユーザー自身なのだ。一方、JPEG データは、調理済みで食卓に出された料理といえる。

○SILKYPIX の利点

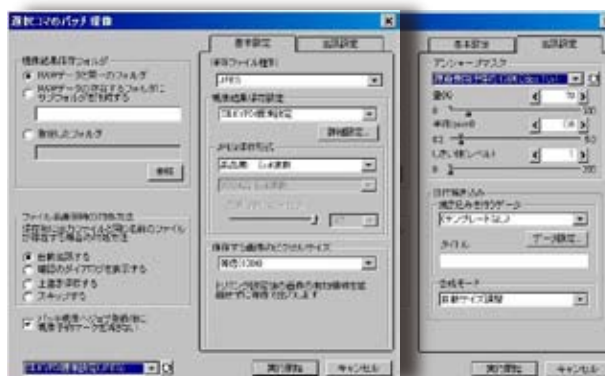
最大の理由は、「記憶色」や「期待色」を反映した多彩な絵作りのプリセットが用意されていることと、日本人の写真家およびベテランマニアに違和感のない操作性にある。何より翻訳ソフトには無い日本語開発のインター



高木大輔講師の講義



SILKYPIX Pro の二画面比較画面



「選択コマの一括現像」は非常に使いやすい

フェースがありがたい。日本人一眼レフのベテランユーザーなら、各メニューを読めばすぐに理解できるか、分からずともほぼ意味は理解できるのだ。
「選択コマの一括現像」などもデジタルワークフローをよく考慮されており、簡単に使いこなせるだろう。

(コメントや意見の追加をお願いします)

会員発表「秋から初冬の中欧」:

チェコ、ポーランド、ドイツ東部、オーストリア紀 安藤 和 正会員

昨年秋(2010.9.6-10.29)、ほぼ二月間に亘って中欧を旅した安藤会員からのレポート。日本では初秋からの季節だが、現地では早くも晩秋から初冬の風情だったようだ。

――『この時期の中欧は、深まる秋と初冬の、しっとりとした表情をみせてくれる。ポーランドとドイツ東部は初めての訪問。去年までと違って、田舎のホテルでも客室でインターネットが繋がる所が多くなり、又、レンタカーにもカーナビが付き、旅が便利になってきている…』とは安藤氏の解説の出し。

まさにしっとりとした風景に相応しい、落ち着いたモノクロ表現が印象的だった。何枚かはカラーとモノクロを対比させて見せていただいたのが興味深い。

他の会員にも、モノクロ表現にあらためて関心を持たれた方もいたようである。

(コメントや意見の追加をお願いします)

参加者全員による“ライトニングトーク” (持ち時間5分のショートトーク)

12月は勉強会がお休みだったため、恒例の会員発表も二月ぶりで盛りだくさんの内容となった。

HK氏は10年前に世を去った沖縄の写真家・比嘉康雄(1934-2000)の紹介。久高島・イザイホーや宮古島のウヤガンなど、沖縄の不条理に向き合い、島々の祭祀を紹介。沖縄に生きるとは何か、を問いかけてくるようだ。もう一人小島一郎(1924-1964)。厳寒の津軽や下北の風土を大胆な構図と独特の世界観で表現。雪原、農作業風景など平凡な被写体と覆い焼きによって強調した空の風景から生み出される強烈なイメージや構図力と確かな技術は、日本の報道写真のさきがけである名取洋之助からも高い評価を受けた。また、小島の写真店に勤めていた沢田教一に大きな影響を与えた一とのことである。

KS氏は年末撮影会のNUDE作品の一端を披露。4点ほどの習作であったが今後作品化する途中経過とのこと。尚、今回の撮影会では光量の制約があり、皆撮影には苦労されたようだ。



安藤和 正会員の発表



安藤氏の旅程図



しっとりとしたモノクロ表現をプリントでも確認



OT氏は近く家の建て替えを予定されていることもあり、永年親しんだモノクロ機材の処分についての意見を皆に問うたが、「個人的に必要な人に譲る」、「切が無いので写真に撮って所持の記憶を定着させたら、思い切って捨てる」、「レンズ等は出来るだけデジタルでも転用する」、「デジタル機材が欲しかったときの下取りとして、少しでも“受け継がれた”ことで割り切る」など、各人各様の意見が出た。

IH氏は日課の毎朝の散歩を兼ねた撮影の報告から。「冬の朝は夜明けの朝の色が毎日違う」そうで、野川周辺の12月桜、力芝などの作品を披露してくれた。

ST氏は年末撮影会のNUDE作品の披露。ベテランらしいユニークで優しい視点の作風が印象的だ。

TM君からは海外行で必要を感じた、大型カメラバックの利用法についてあれこれ。機材が増えるとショルダーでは重いし、キャリアバックも開閉性と重心を考慮することが必要だ。バンガードの蓋付インナーケースが秀逸とのこと。

JD氏は中国行で立ち寄った兵馬俑の写真紹介。いつもながら大陸ならではのスケールに圧倒されるが、こうした親しい仲間のスナップでは本や取材写真では隠された舞台裏や身近な距離感？というものがうかがい知れるのが楽しい。

NYさんは写真とは別に取り組んでいたエッセーの朗読。でももちろんカメラに関するモチーフが入っていて、NYさんらしいユニークさに溢れている。新春らしい、清々しい気分させてくれた。

YA氏からは定期的なNUDE分科会のお誘い。同ジャンルで作品作りを目指す氏ならずとも、やはり同じモデルで撮りこんでいくことが重要だ。

SY氏は半年に亘って参加していたユーザインターフェースに関する研究プロジェクトの報告。…

最後に初参加のE氏から自己紹介を兼ねた感想があった。

(コメントや意見の追加をお願いします)

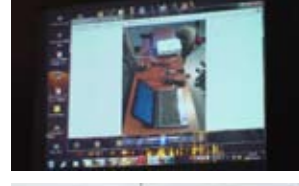
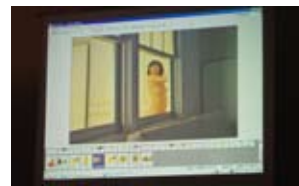
Photoshop 研究講座 平野正志 講師 「デジタル写真と粒状感」

デジタル写真には粒子がない。ピクセルでできている写真の一部のピクセルにノイズが発生して粒子のように見える場合があるが、デジタルカメラの開発や進歩はできるだけノイズの少ない綺麗な画像を求めている。

画素数が上がる現在では余計にその傾向が有るようだ。一方でフィルムにある粒子の魅力をデジタルモノクロ写真に何とか求められないかという希望もある。

デジタル写真にフィルムのような粒子を加える方法にフォトショップでは以下の、三つの方法がある。

(銀粒子の粒状感をシュミレートしたものだが、基本的にはノイズを加えるような方法で、銀粒子とは違う。)



平野正志講師

①：粒状フィルムフィルタ

・・・粒子で全体の粒状感を選び、密度で明暗と粒子の度合いを選択、その後全体を領域のハイライトで選ぶとよいようだ。

②：粒状フィルタ

・・・カラーノイズを加えているように見える。「粒状フィルムフィルタ」ではモノクロノイズのようだ。

程度にもよるが画面が明るくなる分、色調も淡く薄くなる印象がある。極端にかければソラリゼーションのような効果となってしまった。効果を強くすればするほど写真的な効果からは離れて、絵のような効果となってしまった。効果はごく低い値でかけるのがよいようだ。

③：ノイズを加える

・・・背景のレイヤーのコピーを作り、「ノイズレイヤー」を作る。二重印刷の要領でノイズだけを上に乗せて印刷する。

この二重印刷の要領で、ダブルトーン印刷にノイズレイヤーを加える方法も可能だろう。粒状ノイズレイヤーは微妙なずれでも違和感が現れるので、ダブルトーンの二度の印刷のうち粒状の印刷は一度だけにしたほうがよいだろう。

ノイズレイヤーはレイヤーなので、ノイズの強度などを自由に再調整できる。

また、フィルムをシュミレートしたソフトなど、粒状に関する専用ソフトなどもフォトショップ用プラグインなどとして発売されている。

Nik Silver Efex Pro (Mac/Win ハイブリッド)

標準価格 (税込) \25,200 NP 特価 (税込) \24,000

「今まで高度なスキルの必要だった、デジタル画像からのモノクロ写真生成を、どなたでも簡単に、そして高品質に完成させることのできる Adobe Photoshop プラグインソフト。28種のプリセットメニューによるワンタッチ完成から、コントロールポイントと、フィルター、フィルムタイプ、トーニング、ヴィネット、周辺の焼き込み等の機能による詳細なカスタマイズも可能…」とある。

(コメントや意見の追加をお願いします)

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME)

<http://www.digitable.info>



1000万画素のコンパクトデジでも粒状性は感じられない



粒状フィルム：粒子5：領域のハイライト1：密度1



かけすぎるとソラリゼーションのようになってしまう



ノイズを加える 300%ガウス分布 グレースケール



今月の1枚：
大学院での「ユーザビリティ研究」について熱心に解説してくれたS会員